

2004 年度

民事法問題用紙

注 意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙は黒インクのボールペンまたは万年筆で記入してください。黒インクのボールペンまたは万年筆を忘れた人は監督に申し出てください。(黒鉛筆・シャープペンシルなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は4頁までとなっています。試験開始後、ただちに頁数を確認してください。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、あなたの受験番号の番号であるかどうかを確認してください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

．次の文を読み，下記の設問(1)・(2)に答えよ。

X会社は，総資産約200億円，2002年度の経常利益が約15億円の株式会社である。X会社の子会社であるY株式会社は，2003年10月，その社宅用地購入および社宅建設資金のため，Z銀行から20億円を借り入れた。その借り入れの際，Z銀行が，当該消費貸借契約に基づくY会社の債務につきX会社が連帯保証するよう要求したところ，X会社の代表取締役Aは，X会社取締役会決議を経る前に，Z銀行との間で連帯保証契約を締結した。

なお，Z銀行は，当該連帯保証契約締結に関するX会社取締役会決議の議事録を開示するよう求めたが，Aは「当社の慣例上，そのようなことはしていない」旨返答した。Z銀行も，近年知名度が上がってきたX会社のことであり，Aから「取締役会決議は経る」旨の念書の差し入れを受けたので，それ以上は取締役会決議に関して触れなかった。

(1) Y会社が消費貸借契約上の債務を履行しない場合，Z銀行はX会社に対して連帯保証債務の履行を求めることができるかを論ぜよ。解答は，緑色の解答用紙(その1)にしるせ。

(2) Z銀行は，X会社に対して連帯保証債務の履行を求める訴えを，そしてAに対して損害賠償を求める訴えを提起した。Z銀行のX会社に対する訴訟とZ銀行のAに対する訴訟は，それぞれどのような関係に立つかを論ぜよ。またAが，自らの訴訟において「取締役会決議は経る」旨の念書の写しを証拠として提出した場合，当該書類は，ZのXに対する訴訟でも証拠となるかを論ぜよ。解答は，茶色の解答用紙(その2)にしるせ。

．次の文を読み，下記の設問(1)・(2)に答えよ。

Aは，債務超過に陥っているBに対して，300万円の貸金債権を有し，他方，CもBに対して200万円の売掛代金債権を有している。Bは，長期にわたって取引のあるCと協議し，Bの所有する時価300万円の高級外車(以下，「本件自動車」という)をCに対して代物弁済することにした。本件自動車の引渡を受けたCは，これをDに200万円で売却し，Dは半年の間本件自動車を使用している。

(1) CおよびDが，Aを害することを知りながら各法律行為を行った場合に，Aは債権者取消権を行使することができるか，また，誰を被告として何を請求すべきかを論ぜよ。解答は，紺色の解答用紙(その3)の表面にしるせ。

(2) かりにCが善意・Dが悪意であったとすれば，Aは，Dに対して債権者取消権を行使することができるか，また，その行使が可能であるとした場合に，A B C D各当事者相互間の法律関係はどうなるかを論ぜよ。なお，Dの本件自動車の使用利益は，30万円であるものとする。解答は，紺色の解答用紙(その3)の裏面にしるせ。